

図画工作科における授業づくりのポイント

平田 将太郎

1 図画工作科における主眼について

図画工作科では、授業の主眼を二つの観点から書きます。一つは、内容【知識及び技能】です。二つは、その内容を捉えるための見方や活動【思考力、判断力、表現力等】を書きます。

○ 主眼の作り方の例

主眼1 □□(表したいこと)を, ■■(表し方)を工夫して, 形や色を~して表すことができるようにする。

2 ~する活動を通して, ~のよさや美しさについて話し合うことができるようにする。

【第6学年題材「カット、ペタット、すてきな形(4/4時)」の主眼1の例】

(1) 解説書で内容を焦点化する (※ 波線は本時に関する部分)



「A表現(2)イ」(小学校学習指導要領 解説 92 ページ一部抜粋)
 絵に表す活動を通して, 表したいことに合わせて表し方を工夫すること。
 (共通事項)(1)ア(小学校学習指導要領 解説 100 ページ一部抜粋)
 形や色の造形的な特徴を理解すること。
 ⇒例えば, 形そのものがもつ方向感, 材質感の違い, 色の鮮やかさ, 時間的な変化の動き, 量感や奥行きの感じ, ものの動きやバランスなど

【**焦点化された主眼**】
 表したいことに合わせて表し方を工夫して奥行を出したり, 色のバランスを保ったりして表すことができるようにする。

(2) 教科書で内容を具体化する (※ 波線は本時に関する部分)

図画工作科
の教科書に
記載されている
作品

①何を工夫するのかを具体化する
 工夫するのは紙の切り方や切り抜き方, 切ったり切り抜いたりした紙の重ね方や並べ方

②着目する形や色(造形的な視点)を具体化する
 形…動き, 方向感やリズム感, 奥行き
 色…寒暖, 明暗, バランス, 統一感

【**具体化された主眼**】
 表したいことに合わせて紙の重ね方や並べ方を工夫して, 方向感やリズム感を出したり, 色に統一感をもたせたりして表すことができるようにする。

(3) モデル作品をつくって内容を明確化する



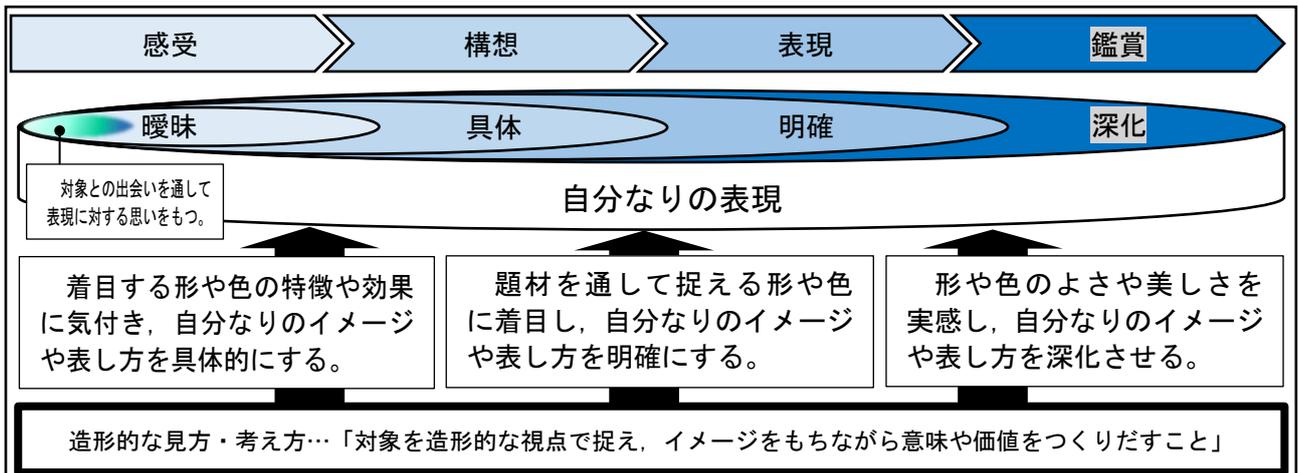
①表したいこと(テーマ)を明確化する
 多種多様な形や色から自分なりの表現を追求するために, 複雑である「感情」を表していくことを本題材のテーマとして設定する。

②形や色に着目するための鑑賞の視点を明確化する
 切ったり切り抜いたり, 並べたり重ねたりするアンリ・マティスの作品を鑑賞して, 形や色のよさや美しさに着目できるようにする。

【**明確化された主眼**】
 自分の「□□な感情」についてのイメージに合わせて, 切ったり切り抜いたりした両面色画用紙の並べ方や重ね方を工夫して, 方向感やリズム感を出したり奥行きを感じを出したりして表すことができるようにする。

2 図画工作科における題材指導計画について

図画工作科では、表現に対する思いを基に、題材全体を通して「造形的な見方・考え方」を働かせながら自分なりの表現を追求し、創造的に表現していくことが大切です。



3 図画工作科における一単位時間の学習過程について

図画工作科では、イメージをもつ感受の段階、イメージに合わせて表し方の見通しをもつ構想の段階、見通しを基にイメージを具体化する表現の段階、イメージを広げたり深めたり、楽しさや面白さ、よさや美しさを味わったりする鑑賞の段階といった四つの学習過程を大切にします。

○ 一単位時間の学習過程（波線は、ICT 活用）

段階	子供の活動	○教師の具体的支援						
導入 (感受)	<p>○ 対象と関わったり、前時の学習を振り返ったりして、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>前時までの作品 ← 関連 → 表したいことのイメージ</p> <p>めあて □□な感じを、～を工夫して表そう。</p>	<p>○ 本時学習のめあてをもたせるために、ワークシートと前時までの作品を関連付け、イメージの表出具合について交流する場面を設定する。</p>						
展開 (構想・表現)	<p>○ 多様なイメージ、表し方と関わり合い、自分の表したいことに合う表し方の見通しをもつ。</p> <p>表し方とは、表したいことを表すために適した方法のことです。(例…並べ方、重ね方など)</p> <p>イメージA(自分) ↔ 交流 ↔ イメージB(友達)</p> <p>表し方A(自分) ↔ 表し方B(友達)</p> <p>○ 工夫した表し方の効果を見だし、自分のイメージや表し方を付加、修正、強化する。</p> <table border="1"> <tr> <td>表し方を付加 表し方A+B</td> <td>表し方を修正 表し方C</td> <td>イメージを強化 イメージA'</td> </tr> <tr> <td>表し方のAとBを組み合わせると、前よりも□□な感じが表れてきたよ。</td> <td>前とは別の表し方で表すと、□□な感じがもっと表れてきたよ。</td> <td>表したいことについてのイメージをもっと膨らませてみようかな。</td> </tr> </table>	表し方を付加 表し方A+B	表し方を修正 表し方C	イメージを強化 イメージA'	表し方のAとBを組み合わせると、前よりも□□な感じが表れてきたよ。	前とは別の表し方で表すと、□□な感じがもっと表れてきたよ。	表したいことについてのイメージをもっと膨らませてみようかな。	<p>○ 見通しをもたせるために、表したいことのイメージや表し方を見返したり選択したり編集したりする場面を設定する。</p> <p>○ 表現の工夫の効果に気付かせるために、工夫したことによる変容について交流する場面を設定する。</p>
表し方を付加 表し方A+B	表し方を修正 表し方C	イメージを強化 イメージA'						
表し方のAとBを組み合わせると、前よりも□□な感じが表れてきたよ。	前とは別の表し方で表すと、□□な感じがもっと表れてきたよ。	表したいことについてのイメージをもっと膨らませてみようかな。						
終末 (鑑賞)	<p>○ 本時の学習について振り返り、自分なりの表現について話し合う。</p> <p>前時までの作品 ← 比較 → 本時の作品</p> <p>まとめ □□な感じを、～を工夫して表すことができた。</p>	<p>○ 満足感を味わわせるために、前時までの作品と本時の作品を比較し、表現の変容について交流する場面を設定する。</p>						

4 図画工作科における ICT の活用について ※ ICT の活用は主眼達成の手立てであり、目的にならないように気を付けます。

図画工作科では、ICT の活用について大きく二つの用い方があります。

- ・学習者用端末に、イメージや作品の写真、振り返りを含んだワークシートを保存することで、表したいことのイメージと作品を関連付けながら毎時間の表現を積み上げることができる。
- ・イメージ、作品、表し方、振り返りといった表現に関する四つの情報を共有しておくことで、友達の表現を生かし、短時間で自分なりの表現の見通しをもつことができる。

○ 図画工作科における ICT を用いる学習過程

導入(感受)	展開(構想・表現)	展開(表現・鑑賞)	終末(鑑賞)
既習の表現に関する情報を見返し、表したいことのイメージと作品を関連付けることができるようにする。	作品の画像やイメージを加工、編集して、表現をつくりかえる見通しをもつことができるようにする。	参考にしたいイメージや表し方を選択し、自分の表現に取り入れることができるようにする。	前時までの作品やイメージを見返し、形や色、イメージの変容を実感することができるようにする。
イメージが作品のこの部分に表れているね。 	～な線を入れると、どんな感じになるかな。 	友達がやっていた表し方で表してみよう。 	最初にイメージした形や色に近付いてきた。 